

[課題演習概要]

生徒が歴史事象を意味づける高等学校歴史の授業づくり
—生徒一人一人の多面的・多角的思考を生かして—

山 本 金 之 介

Kinnosuke YAMAMOTO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
中等教科教育高度実践力プログラム

(2024 年 1 月 10 日受理)

キーワード：高等学校，歴史，知識構成型ジグソー法，多面的・多角的思考，探究活動

1 研究の目的

令和4年度から，高等学校では新教育課程が始まった。その中で歴史学習は過去の歴史事象から学び，現代に残る諸課題に関し問いを立てたり，解決に向けて構想したりする学習の必要性が示されている。加えて生徒が主体となって学習を進めることも求められ，「教員が語る歴史」から「生徒自身が語る歴史」への転換が迫られている。このような新しい歴史学習を充実したものにするために，生徒一人一人が歴史的事象を多面的・多角的に分析し，考察する課題解決型学習が必要になる。

本研究は，生徒自身が歴史事象に対して歴史的な見方・考え方をはたらかせて学習し，その意味を見出していく学習活動を目指すものである。諸資料を活用して歴史事象に関する情報を獲得し，その意味や意義について議論したり，考察したりする活動から課題を主体的に解決する態度を養うことにつながる。

このことは高等学校の新教育課程における歴史学習の授業づくりの一助となる。

2 研究の計画

県立A高等学校の第2学年の生徒32名を対象に世界史探究の授業を行う。6時間単元の第1時と第6時の授業実践を行う。第6時では，生徒の多面的・多角的思考を促すため，知識構成型ジグソー法を活用する。歴史的事象を意味づける学びの高まりについては，生徒の発言やワークシートの記述を基に分析考察を行うものとする。

3 研究の内容

(1) 多面的・多角的思考について

多面的・多角的思考とは，対象とする事象を複数の視点や視座から分析することをさす。例えば，歴史学習である事象を対象とすると，軍事や経済，文化等の視点を変えることを多面化とし，為政者の視座や民衆の視座，他国からの視座，時間軸を変えて現代からの視座というように視座が変わることを多角化という。

今回の実践では，「知識構成型ジグソー法」を取り入れる。この手立ては，学習課題に対する思考の視点を増やしたり，つなぎ合わせたりする思考法である。手順としては，個人で学習課題を明確にした上で，エキスパート活動とジグソー活動の二つのグループ活動を行う。まず，班ごとに同じ教材を読み合い，内容や意味について理解を深めることで生徒はそれぞれの教材の専門家になる（エキスパート活動）。続いて異なる教材のエキスパートとなった生徒がそれぞれで得た知識を持ち寄って意味づけを多面化・多角化する（ジグソー活動）。最後に自分の学習課題について考え，結論付ける学習展開となる。

(2) 授業実践内容

内容	7世紀～11世紀までのイスラーム世界
資料	○教え，軍事力（資料A） ○税制度（資料B） ○ムスリム商人・神秘主義（資料C）

第1時で，「どうしてイスラーム世界は急速に拡大し，世界的宗教になることが出来たのだろうか」という問題意識を持たせ，第6時の前日までに取

材活動を通して、自分なりの意味づけを行うよう指示した。

第6時は、知識構成型ジグソー法による授業構成とした。まず、授業前での個々の意味づけの視点から、エキスパート活動の班編成を行い、それぞれの班で上表のような3つの資料に対する理解を深め、専門家となるように活動させた。ジグソー活動では、エキスパート活動で獲得した知識やこの時点での意味づけを持ち寄せ、イスラーム世界の拡大を多面的、多角的に考察させた。説明する際には、根拠となる資料を提示し、論理的な説明をさせた。この2つの活動を通して、生徒が資料集から資料を探し、他の生徒へ説明したり、複数の資料から得られる情報を集約したりして、意味づけを行う姿が見られた。終末段階では自分なりの意味づけを振り返らせた。

(3) 授業実践の分析

第6時の実践授業を分析するにあたり、生徒2名を(生徒A、B)抽出した。授業前の段階で生徒Aは、「イスラーム教の教えが簡単であり、入信者が増加したことで地域間のつながりが深まりイスラーム世界が拡大した。」として、イスラームの拡大を宗教の簡単さや入信のしやすさという一点から意味づけを行っている。生徒Bは、「(現在の)人口爆発地域の東南アジアまで広がり信者の人口が増えたから」として、現代という視座から東南アジア地域の人口爆発に着目し、必然的に信者の人口も増加したからイスラームが世界的宗教となったと意味づけを行っている。

エキスパート活動において、生徒Aはイスラームの教えや軍事力の強大さに関する資料Aのエキスパートとして活動し、生徒Bはウマイヤ朝からアッバース朝への王朝の変化に伴う税制度の変化と改宗者数の変化を示した資料Bのエキスパートとして活動した。ジグソー活動において、生徒Aの所属する班では、イスラームの教え、税制度、ムスリム商人、神秘主義の4つの視点でまとめた。生徒Bの所属する班では、ムスリム商人、税制度の2つの視点でまとめた。

第6時終末では、それぞれ個人で再び、単元を貫く課題と向き合い、生徒Aは「キリスト教やユダヤ教を同じ啓蒙の民とし、広い地域で受け入れられ、アッバース朝によるムスリムの平等、ムスリム商人の信仰により、改宗しやすかったから。」と意味づけしている。授業前では、教えという1つの視点から意味づけを行っていたが、イスラームの拡大を当時の王朝の税制度と他宗教への寛大さにより改宗が大きく進んだという2つの視点から多

面的な見方ができ、さらに、商人の活動という点も加えて多面的に論じている。生徒Bは「ムスリム商人が商売と一緒に布教を行い、異教徒や改宗者に対しても平等であり、神秘主義等の簡単なものもあったから」と意味づけしている。意味づけする際の時間軸が現代から過去に変わっている。これは思考の視座が変わっており、多角化したといえる。また、生徒Aと同様に商人の存在や神秘主義という信仰のしやすさ、ムスリムの平等という2つの視点から論じ、意味づけが多面化したといえる。今回抽出した生徒2名は、異なる教材の専門家として活動したが、自らが読み込んだ教材やジグソー活動における他の生徒の説明から獲得することができた視点を総合して最終的な意味づけを行うことができたといえる。

生徒の自由記述による感想では、「1時間全部自分たちで行う授業は初めてで楽しく学習できた。」「まとめの時間として教の活動ができ、勉強した内容を整理して覚えることが出来た。」「イスラームが世界的な宗教となることが出来た理由がわかり良かった。」といった記述がみられた。授業として、生徒は歴史事象を多面的・多角的に理解することに主体的にとり組み、歴史事象の意味づける面白さを感じながら学習活動に取り組んだ。

4 ○成果と●課題

○本実践では、生徒の思考が多面的多角的となり、それぞれの意味づけを深めることができた。高等学校における歴史学習においても手立てを工夫により、単元学習が可能であることを示すことができた。

●生徒によっては、正確に課題を理解し、課題解決のための資料を探したり、表やグラフから情報を読み取ったりする力を身に着けさせる必要があると感じた。日々の学習の探究活動の基礎となる力を育む時間を位置づける必要があった。

主な引用・参考文献

- 小川幸司 2021 「〈私たち〉の世界史へ」『岩波講座 世界の歴史 01 世界史とは何か』岩波書店 所収
飯塚慎吾 2023 「「問いを表現する」歴史総合の意義と課題」歴史科学協議会『歴史評論』877号所収
本間靖章 2023 「生徒が語る」歴史総合の授業展開」岩波書店『思想』1181号 所収
文部科学省(2019)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編」, 学校図書.
東京大学 CoREF「協調学習リソース」.
<https://ni-coref.or.jp/>協調学習リソース